

6 ラグビー 総評

今年度は16校9チーム（うち合同5チーム12校）での大会となり、昨年度より1チーム減少した。年々チーム数が減少し、合同チームが増加している現状が見られる。

今大会においては、新人戦上位4校がシードとなり、順当に勝ち進んだ結果、準決勝はシード校同士の対戦となった。準決勝第1試合は、明和県央が高崎を終始リードし、85-7で勝利した。準決勝第2試合は桐生第一と農大二高の対戦となった。新人戦では7-7の同点となり、抽選の結果、農大二高が決勝へ進出したが、今大会では終始農大二高が攻守に圧倒し、27-0で勝利を収めた。

17日は30度を超える暑さの中、3位決定戦が行われた。展開力を武器とする桐生第一が高崎のディフェンスを破り、トライを重ねた。高崎も前半、相手ゴール前でのFW戦からラックサイドを突いてトライを奪った。しかし、その後も桐生第一が攻撃の手を緩めることなく、45-7で勝利し、3大会連続7回目の関東大会出場を決めた。

決勝戦は新人戦同様、明和県央と農大二高の対戦となった。農大二高は開始早々、FW、BKが一体となって明和県央ゴール前まで攻め込んだが、明和県央は粘り強いディフェンスから相手のミスでボールを奪い、自陣ゴール前から一気にBKが走り切り、ハーフウェー付近でボールをつなぎ、2人で100mを走破して先制トライを奪った。その後も農大二高が幾度となく攻め込んだが、明和県央の堅いディフェンスに阻まれた。明和県央は前後半で6トライを挙げ、無失点で4大会連続12回目の優勝を決めた。明和県央は5大会連続21回目、農大二高は4年ぶり44回目の関東大会出場となった。

近年、全国大会ではシード校の壁を破ることができていないが、今後のレベルアップに期待が持てる大会となった。また、競技人口は年々減少傾向にあり、競技人口の確保が急務である一方、単独チーム、合同チームともに部員数が少ないながらも、各顧問の熱心な指導の成果が感じられる大会でもあった。

なお、上位3校の明和県央、農大二高、桐生第一が、本県前橋市のアースケア敷島サッカー・ラグビー場を拠点として開催される関東大会に出場する。

